

平成 23 年 9 月

京都府公立大学法人の業務の
実績に関する評価結果報告書

京 都 府

平成22年度

京都府公立大学法人の業務の実績に関する評価結果

平成23年9月

京都府公立大学法人評価委員会

1 評価の基本方針

(1) 評価の趣旨

京都府公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第1項の規定により、京都府公立大学法人（以下「法人」という。）の平成22年度の業務の実績について評価を行った。

(2) 評価の方針

- ア 大学の教育研究の特性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資する。
- イ 中期計画に定めた項目ごとの各年度における具体的な実施状況について調査・分析し、業務の全体について評価を行うことにより、業務運営の改善・充実に資する。
- ウ 評価を通じて、法人の業務運営状況を明らかにし、府民にわかりやすく示す。

(3) 評価の方法

- ア 評価は、法人による自己評価を聴取した上で行った。
- イ 評価は、全体評価及び項目別評価により行った。

(ア) 全体評価

全体評価は、項目別評価の結果を踏まえ、法人の業務の実績全体について評価を行った。

(イ) 項目別評価

項目別評価は、年度計画の小項目及び大項目ごとに行った。

年度計画の小項目ごとの評価は、次のⅣ～Ⅰの4段階により行った。

- | |
|--------------------|
| Ⅳ 年度計画を上回って実施している |
| Ⅲ 年度計画を十分に実施している |
| Ⅱ 年度計画を十分には実施していない |
| Ⅰ 年度計画を実施していない |

年度計画の大項目ごとの評価は、次のS～Dの5段階により行った。

- | |
|-------------------------------|
| S 特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合） |
| A 順調に進んでいる（すべてⅣ又はⅢ） |
| B 概ね順調に進んでいる（Ⅳ又はⅢの割合が9割以上） |
| C やや遅れている（Ⅳ又はⅢの割合が9割未満） |
| D 重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合） |

2 全体評価

(1) 総評

法人は、京都府立医科大学（以下「医科大学」という。）及び京都府立大学（以下「府立大学」という。）の設置及び管理を通して、京都府民に開かれた大学として透明性の高い運営を行うとともに、両大学の教育研究の特性への配慮の下で、百年を超える伝統及び実績の継承や両大学相互の連携を図ってきた。

また、京都府における知の拠点として、質の高い教育研究を実施することにより幅広い教養、高度の専門的な知識及び高い倫理観を備えた人材を育成してきた。

さらに、大学や地域の多様な主体と協力・連携した研究成果等の活用、附属病院における全人医療の提供等を通じて、京都府民の健康増進及び福祉の向上、京都文化の発信並びに科学・産業の振興に貢献してきた。法人は、地域社会はもとより、国内外の発展に寄与することを目的として、平成20年4月1日に発足した。

平成22年度は、法人化3年目を迎え、中期計画達成に向けて、年度計画が着実に進捗しており、理事長及び両大学の学長を先頭に教職員が一丸となって努力されていることが認められる。

両大学では、独自の教育研究を推進するとともに、京都工芸繊維大学と3大学で教養教育の共同化を推進するため、教養教育共同カリキュラム化及び教養教育共同化施設の整備に向けて、新たに企画検討委員会を設置するなど具体的な検討が進められている。

医科大学では、高度先進医療として、患者心臓由来幹細胞を用いた重症心不全患者への心筋再生医療など高度先進医療に積極的に取り組んだほか、地域医療に貢献できる医療人の育成について、総合医療・医学教育学教室を開設するなど積極的に取り組んでいる。

また、附属病院の経営改善についても病床利用率や医薬材料比率の改善など成果がみられた。

府立大学では、学研都市における旧「花空間けいはんな」の既存建物等を活用して、新たに産学公連携研究拠点施設として整備し、学研地域における新産業創出とともに、研究成果の地域還元に貢献できるよう環境の整備が進められた。

平成22年度の業務実績を評価すると、年度計画446項目中435項目（97.5%）において、「年度計画を上回って実施している」、「年度計画を十分に実施している」と認められた。大項目別評価のうち業務運営の改善等に関する事項が「概ね順調に進んでいる」B評価から「順調に進んでいる」A評価へと向上が図られるなど、全体としては「概ね順調に進んでいる」と認められる。

今後も両大学が、百年を越える歴史と伝統に培われた特色ある教育研究の強みを活かしながら、中期目標及び中期計画の達成に向けて、理事長及び両大学の学長のリーダーシップの下、教職員が一丸となって着実に業務の推進と成果の達成を図っていくことを期待する。また、取組が十分でないと思われた課題については点検し、今後の法人の業務改善に活かされることを期待する。

(参 考) 大項目別評価一覧表

大項目 \ 評価	S 特筆すべき進捗状況 にある	A 順調に進んでいる	B 概ね順調に進んで いる	C やや遅れている	D 重大な改善事項 がある
教育研究等の質の 向上に関する事項			○ (○)		
業務運営の改善等 に関する事項		○	(○)		
財務内容の改善に 関する事項			○ (○)		
自己点検・評価並 びに情報の提供に 関する事項		○ (○)			
その他運営に関す る重要事項		(○)	○		

注) () 書は21年度の評価結果

(2) 特筆すべき事項及び課題となる事項等

(教育)

【医科大学】

- ・ 医学科では、新たに第6学年担当教員制度を創設し、第6学年全員を対象に、臨床医学教室の全教授が分担して、それぞれの担当学生の進路相談にきめ細かに応じた。

【府立大学】

- ・ 文部科学省の平成22年度大学生の就業力育成支援事業に申請し、「地域社会と関わる人間を育てるキャリア教育」が選定され、キャリアサポートセンターを設置するとともに、初年次から学生のキャリアをサポートする「キャリア育成プログラム」を新たに構築した。

【3大学連携】

- ・ 医科大学、府立大学、京都工芸繊維大学の3大学の教養教育の共同化を推進するため、共同カリキュラムの中の授業の一形態として医科大学と府立大学の共同実施科目を開講した。
また、3大学の授業開始時間の統一や医科大学において5時限目を新設するなど、学生が受講しやすくするための条件整備を進めるとともに、共同カリキュラム案等を具体的に検討するため、3大学推進協議会の教養教育部会に企画検討委員会を新たに設置し、共同カリキュラムの実施時間帯等を検討した。

(研究)

【医科大学】

- ・ 「京都府がん診療連携拠点病院」としての取組と一体化したがん征圧センターにおいて、臨床応用可能な、医大発の「がんの分子診断装置や分子標的薬の開発」に向けて、基礎と臨床が講座横断的に研究を推進するとともに、「腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法」等の附属病院で実施可能な先進医療をホームページで紹介するなど府民への情報発信を積極的に行った。

【府立大学】

- ・ 京都府立大学生命環境科学研究科主催、近畿中国森林管理局、京都府、京都市の後援により、「ナラ枯れ緊急報告会」(10月11日)を開催し、ナラ枯れのメカニズムや防除方法・被害の現状や被害を受けた森林の今後の変化と市民の関わりについての報告を行った。さらに京都府、奈良県の森林審議会の委員、近畿中国森林管理局の主催する委員会の委員として政策提言に関わったほか、論文発表を行った。(国内学会：13件、国際学会：6件)

(地域貢献)

【医科大学】

- ・ 医師不足が深刻な府北部地域の人材確保について、平成23年3月時点、府本庁4課へ6名、7保健所へ9名、与謝の海病院へ43名、その他関係6機関へ20名の合計78名の医師を派遣し、府内の地域課題や行政課題等の解決に幅広く貢献した。
- ・ 平成23年1月から、地域医療に貢献できる医療人を育成するため、総合医療・医学教育学教室を新たに開講し、医学教育の専任教員を配置するなど研修医へのきめ細やかな指導を行った。

【府立大学】

- ・ 京都府の支援を受け、経済産業省補助金を活用し、学研都市における旧「花空間けいはんな」の既存建物等を活用して、新たに産学公連携研究拠点施設を整備した。これにより植物工場プロジェクトを推進する植物系実験研究棟、ガラス温室及びダチョウ抗体プロジェクトを推進する動物系実験研究棟が整備され、学研地域における新産業創出を図るとともに、研究成果を地域へ還元する体制整備が進んだ。
- ・ 京都府農林技術センター生物資源センター基礎研究部に教員4名を派遣し、生物資源の活用に関する基礎研究を実施した。また、農林技術センター企画室と共同で地域農林リサーチオフィスを設置、教員1名を派遣して、中山間地域における飼料米生産の定着・拡大条件に関する研究など農山村地域の活性化に関する共同研究を行い、その成果を農林行政にフィードバックした。

(医療への貢献・医科大学附属病院)

- ・ 治療費減免制度を13技術に適用するなど先進医療申請につながる取組を行い、このことにより新たに5件の先進医療の承認申請を行った結果、中期計画期間中の申請件数10件を達成した。また、がん診療拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院として様々な取組を行った。
- ・ 一元的な病床運用を進め、効率的な病床利用を図るため、「特別共用病床」を設けるなど、病床利用率向上に取り組んだ結果、86.8%と年度計画の目標を達成した。
- ・ 同種同効薬等の整理や医薬品の購入価格の低減、在庫管理の徹底による期限切れ防止等の取組、医療材料の不動在庫の整理等の取組を積極的に進めた結果、医薬材料比率も年度計画の目標を上回って達成した。

(3) 評価委員会コメント

- ・ 医科大学においては、医学科・看護学科合同の府北中部地域での滞在実習に積極的に取り組むとともに、医師派遣や地域医療に貢献できる医療人育成講座の新設のほか、附属病院においては、高度先進医療を行う各種診療拠点病院として様々な取組を行ってきた。
- ・ 府立大学においては、今年度採択された文部科学省の就業力育成支援事業を活用し、キャリアサポートセンターを設置するとともに、京都府が実施する京都府学生等就職支援プロジェクトを活用し、職業紹介や個別カウンセリングなどにより、就職希望者の就職活動を支援した。
- ・ 年度計画及び業務実績報告書の実施状況等について、記載内容に一定の改善は見られるものの、依然として抽象的な表現が見られるので、引き続き、府民にわかりやすい表現となるよう更なる努力を期待したい。
特に年度計画の策定にあたっては、来年度は中期計画の達成に向けた仕上げの時期にあることから、年度計画の目標設定について明確にするなど工夫が望まれる。

3 項目別評価

(1) 教育研究等の質の向上に関する事項

評 価	B 概ね順調に進んでいる
-----	--------------

「教育研究等の質の向上に関する事項」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、事業の外形的・客観的な進捗状況についての評価を行った。

(小項目評価：ア～オの計)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	1 5	3 4 4	8	0	3 6 7
構成比 (%)	(4.1)	(93.7)	(2.2)	(0.0)	(100.0)

年度計画に記載の367項目中359項目がIV（年度計画を上回って実施している）又はIII（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、B評価（概ね順調に進んでいる）と認められる。

なお、本項目は、年度計画数が多く、内容も幅広いことから、「ア 教育等に関する目標」、「イ 研究に関する目標」、「ウ 地域貢献に関する目標」、「エ 医科大学附属病院に関する目標」及び「オ 国際交流に関する目標」に分類し、集計を行う。

ア 教育等に関する目標

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	3	1 9 7	2	0	2 0 2
構成比 (%)	(1.5)	(97.5)	(1.0)	(0.0)	(100.0)

平成22年度の実績のうち、評価できる項目（IV、III）又は課題となる項目（II）の主なものを記載する。（以下同じ。）

(ア) 評価できる項目

・ 3大学連携【共通】

医科大学、府立大学、京都工芸繊維大学の3大学の教養教育の共同化を推進するため、共同カリキュラムの中の授業の一形態として医科大学と府立大学の共同実施科目を開講した。また、共同カリキュラム案等を具体的に検討するために3大学推進協議会の教養教育部会に企画検討委員会を新たに設置し、共同カリキュラムの実施時間帯等を検討した。

・ 教育方法【府大】

新規公募の「大学生の就業力育成支援事業」について、教務部長・学生部長、各学部・研究科教員及び学務課職員で構成するワーキンググループで申請書を作成の上、部局長による学内検討会を経て申請し、選定された。（「地域社会と関わる人間を育てるキャリア教育」）

・就職・継続的教育支援【医大】

学生部長、クラス担任等、学科ごとに複数の教員が適宜、学生の相談に応じた。また、医学科においては、平成22年度から新たに第6学年担当教員制度を創設し、第6学年全員を対象に、臨床医学教室の全教授が分担して、それぞれの担当学生の進路相談にきめ細かに応じた。

(イ) 課題となる項目

・教育課程【府大】

食保健学科目群におけるオムニバス形式で開講したプロジェクト科目のうち、「食農教育論」及び「食農生態論」は食と農の今日的課題に対応した内容となるよう改善を期待したい。

イ 研究に関する目標

(小項目評価)

評価	IV	III	II	I	計
項目数	2	52	2	0	56
構成比(%)	(3.6)	(92.8)	(3.6)	(0.0)	(100.0)

(ア) 評価できる項目

・目指すべき研究の方向・水準【医大】

高度先進医療として、難治性眼疾患に対する羊膜移植術を19例、末梢血単核球移植による血管再生治療を3例実施するとともに、患者心臓由来幹細胞を用いた重症心不全患者への心筋再生医療について、3例の臨床試験を実施し、臨床的先端医学研究を推進した。

・目指すべき研究の方向・水準【府大】

京都府立大学生命環境科学研究科主催、近畿中国森林管理局、京都府、京都市の後援により、「ナラ枯れ緊急報告会」(10月11日)を開催し、ナラ枯れのメカニズムや防除方法・被害の現状や被害を受けた森林の今後の変化と市民の関わりについての報告を行った。さらに、京都府、奈良県の森林審議会の委員、近畿中国森林管理局の主催する委員会の委員として政策提言に関わったほか、論文発表を行った。(国内学会：13件、国際学会：6件)

(イ) 課題となる項目

・研究実施体制等の整備【医大】

研究開発センターの各ユニットが主催する学術講演会を通じた、他大学、他研究機関等との連携・交流が積極的に図られることを期待する。

ウ 地域貢献に関する目標

(小項目評価)

評価	IV	III	II	I	計
項目数	0	48	1	0	49
構成比(%)	(0.0)	(98.0)	(2.0)	(0.0)	(100.0)

(ア) 課題となる項目

・教育機関との連携【府大】

宮津高校との高大連携事業が、今後とも継続的に実施されることを期待したい。

エ 医科大学附属病院に関する目標

(小項目評価)

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	10	38	2	0	50
構成比(%)	(20.0)	(76.0)	(4.0)	(0.0)	(100.0)

(ア) 評価できる項目

・高度で安全な医療の推進【医大】

治療費減免制度を13技術に適用するなど先進医療申請につながる取組を行い、このことにより新たに5件の先進医療の承認申請を行った結果、中期計画期間中の申請件数10件を達成した。

・病院運営体制の強化と健全な経営の推進【医大】

関係医療機関との連携を強化し、新規紹介患者の受入増を図るとともに、先進医療では、新たに5件申請し承認を得たほか、施設基準は40件の新規取得を行った。

・病院運営体制の強化と健全な経営の推進【医大】

一元的な病床運用を進め、効率的な病床利用を図るため、「特別共用病床」を設けるなど、病床利用率向上に取り組んだ結果、86.8%と年度計画の目標を達成した。

・病院運営体制の強化と健全な経営の推進【医大】

同種同効薬等の整理や医薬品の購入価格の低減、在庫管理の徹底による期限切れ防止等の取組、医療材料の不動在庫の整理等の取組みを積極的に進めた結果、医薬材料比率も年度計画の目標を上回って達成した。

(イ) 課題となる項目

・医療サービスの向上【医大】

メディカルセンターの円滑な運用に向けて、具体的な運用案の策定が望まれる。

・医療サービスの向上【医大】

患者満足度調査結果では、特に外来患者の満足度が低位であったため、業務改善に積極的に取り組まれるよう期待したい。

オ 国際交流に関する目標

(小項目評価)

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	0	9	1	0	10
構成比(%)	(0.0)	(90.0)	(10.0)	(0.0)	(100.0)

(ア) 課題となる項目

・国際交流【府大】

国際交流事業（京都府名誉友好大使）や留学生支援事業（アジア人財資金構想等）に協力したが、京都府国際センターとの共催事業についても協議を行い、実施されるよう期待したい。

(2) 業務運営の改善等に関する事項

評 価	A 順調に進んでいる
-----	------------

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	2	30	0	0	32
構成比(%)	(6.3)	(93.7)	(0.0)	(0.0)	(100.0)

年度計画に記載の32項目全てがIV（年度計画を上回って実施している）又はIII（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と認められる。

(ア) 評価できる項目

・評価制度・システム等【府大】

教員業績評価システムの検討チームが設置され、学内意見も踏まえた評価実施要綱案が策定され、教育研究評議会にも諮った上で学長に提言が行われた。この提言を受けて、平成23年度から評価の試行を実施することを決定した。

・教職員の育成【医大】

診療報酬の点検や医療情報医療事務に精通した法人職員計3名を採用したほか、新たに診療情報管理士資格の取得に向け、研修経費を補助する(3名)など、専門職員の育成を図った。

(3) 財務内容の改善に関する事項

評 価	B 概ね順調に進んでいる
-----	--------------

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	0	13	1	0	14
構成比(%)	(0.0)	(92.9)	(7.1)	(0.0)	(100.0)

年度計画に記載の14項目中13項目がIII（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、B評価（概ね順調に進んでいる）と認められる。

(ア) 課題となる項目

・省エネ対策【共通】

省エネルギー推進体制を強化されたが、①買電先の変更、②管理施設の増加、③猛暑の影響等の理由により、温室効果ガスの削減には至らなかった（19年度比7.7%増）。

(4) 教育研究及び組織運営の状況の自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

評 価	A 順調に進んでいる
-----	------------

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	0	11	0	0	11
構成比(%)	(0.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)

年度計画に記載の11項目全てがⅢ（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と認められる。

(5) その他運営に関する重要事項

評 価	B 概ね順調に進んでいる
-----	--------------

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	0	20	2	0	22
構成比(%)	(0.0)	(90.9)	(9.1)	(0.0)	(100.0)

年度計画に記載の22項目中20項目がⅢ（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、B評価（概ね順調に進んでいる）と認められる。

(ア) 課題となる項目

・安全管理【共通】

東日本大震災の教訓を踏まえて、従前の消防計画や防災訓練を十分見直すとともに、他の関係機関とも連携を図り、防火体制のより一層の充実に向けて努められるよう期待したい。